

1人当たり営業利益が増えた企業

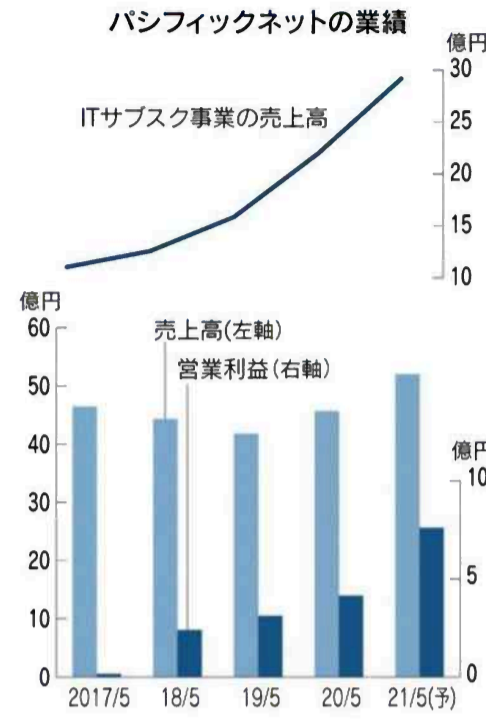
効率経営で稼ぐ力向上

法人向けレンタルに商機

日本経済新聞は売上高100億円以下の中堅上場企業「NEXT1000」を対象に、3年前と比較した従業員1人当たりの営業利益額の伸び率について調べた。上位に目立ったのは、新型コロナウイルス禍をはじめとした強い逆風下でも効率よく利益を稼げる企業。首位はパソコンレンタルを手掛けるパシフィックネットとなった。

「5年前はジェットコースターのような業績だったが、構造改革によって収益が安定してきた」。パシフィックネットの大正巳副社長は自社の現状についてこう語る。

5年前は個人向けの中古パソコン販売事業が主力。フロアの収益が売上高の大半を占め、景気変動など外部要因によって業績が乱高下した。会社は危機感を強め、当時の中古パソコン販売店をすべて閉店・譲渡するなど構造改革を進めた。注力したのは法人向けのITサブスクリプション（定額課金）事業だ。パソコンなどの情報機器を3～5年の中期でレンタルし、月額の利用料を得る。ストック型の収益で、契約を積み上げることで安定的



1位 パシフィックネット

にお金が入る仕組みだ。単に機器を貸し出すだけでなく、ITの運用・保守・管理もまかすこと請け負う。主な顧客は中堅企業。新入社員が入ってくる、企業のIT担当者に代わって端末の初期設定や必要なソフトを導入し、各拠点に配送する。

売上高に占めるストック収益の比率が6割（5期前は16%）にまで高まっている。一連の改革を支えたのは社内の生産性向上策だ。東京都大田区にある「東京テクニカルセンター」。十数台のパソコンがネットワークにつながれ自動で初期設定の作業が進む。これまで

は人手により1台40分ほどかけていたが、自動化システムの導入で「同時に最大150台を10～40分で処理できるようになった」と尾崎執行役員は説明する。

同センターでは、使用済みパソコンを回収してデータを消去する事業も手掛ける。ハードディスクを物理的に破壊するなどして確実に消去したという証明書を発行。近年のセキュリティ意識の高まりで受注が増加している。

21年5月期の連結営業利益は前期比84%増の7億6000万円と4期連続で増え、過去最高となる見通し。一方、従業員数は約170人と3期前から小幅増で、1人当たり営業利益の成長

調査の概要 直近決算期の売上高が100億円以下の上場1025社を対象（金融、変則決算、TOKYO PRO Market上場は除く）。1人当たり営業利益を3期前比較で増加率の大きさを集計。従業員数は有価証券報告書を基にした期中平均を原則採用。2020年1～12月を直近とし、従業員数10人以上、4期連続の営業黒字に限定。2日時点。いつながっている。



パソコンの初期設定作業を自動化し、生産性が大幅に向上した（東京都大田区の東京テクニカルセンター）

1人当たり営業利益額の伸び率が大きい企業

順位	社名	業容	3期前比伸び率	直近の1人当たり営業利益
1	パシフィックネット	情報機器レンタル	25.6倍	261万円
2	桜島埠頭	ばら貨物などの荷役	20.8	283
3	ホロン	半導体検査装置の開発	9.6	3171
4	アルファポリス	ネット小説書籍化	6.3	2057
5	日本テクノ・ラボ	ソフトウェア開発	5.9	518
6	エコナックホールディングス	不動産管理	5.6	1876
7	ジーエヌアイグループ	医薬品開発	5.6	374
8	和井田製作所	研削盤製造	5.5	1020
9	レアジョブ	オンライン英会話	5.1	64
10	エスケイジャパン	キャラクター商品の企画・製造	4.9	580
11	HEROZ	AI開発	4.9	1008
12	メドピア	医師向けサービス	4.7	611
13	リーダー電子	電子計測器製造	4.5	444
14	買取王国	中古品売買	4.4	87
15	ブレインパッド	データ分析に基づく経営改善支援	4.2	312
16	TVE	発電所向けバルブ製造	3.7	274
17	応用技術	ソフトウェア開発	3.7	319
18	アマタホールディングス	環境関連の事業支援	3.7	181
19	サイタホールディングス	建設および砕石	3.7	281
20	コスモ・バイオ	研究施設向け商社	3.7	563
21	ブラッツ	医療・介護用ベッド	3.6	308
22	石井鉄工所	石油タンク製造	3.5	945
23	テスク	流通業向けソフト開発	3.4	241
24	アイ・アールジャパンホールディングス	企業の株主対応支援	3.4	2287
25	浅香工業	ショベルや農機具の製造販売	3.4	58

20位 コスモ・バイオ 研究用試薬 品ぞろえ豊富

コスモ・バイオは大学や製薬企業など向けに研究用試薬・機器を販売しているほか、近年は抗体などの製造受託サービスの成長が目立つ。従業員数の増加を抑えながら外部企業や大学と製造の業務提携を進めてきた。外部環境が不透明なかでも営業利益を着実に積み出し、2020年12月期は7億5200万円と17年12月期比で4倍弱に増えた。従業員数は大幅な増加にとどまっておらず、1人当たり営業利益の増加率が大きくなった。

同社の強みは商品ラインアップの豊富さ。海外を含む約600社から研究用試薬などを仕入れ、全体で約1200万品目に達する。バイオサイエンス分野では研究の高度化に必要な試薬や機器の範囲が広がるなか、多種多様なニーズに対応できることが差別化要素になっている。

14位 買取王国 中古品売買 工具がけん引

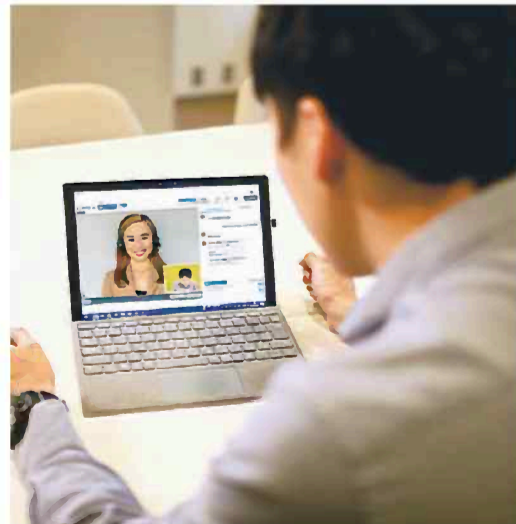
買取王国は愛知県など中部を地盤に主力のリユース店「買取王国」などを展開している。商品ラインアップは多岐にわたり、数百円の玩具から数十万円の高級ブランド品まで数十万点を扱う。商品構成は現場に委ね、適正在庫の維持に努める。買い取った商品は原則、即日で販売する回転率の高さが強みだ。

1人当たり営業利益の増加率が大きかった背景には、好採算業態への参入がある。2017年に新店を開始した工具専門店「工具買取王国」は、比較的高単価の割に店舗は狭くて済むため、利幅を確保しやすい。店頭買い取りシステムの刷新に伴う運営効率の向上で従業員数の増加を抑えていることも寄与する。20年2月期の営業利益は前の期から3倍超に増加し、21年2月期も増益を確保した。

9位 レアジョブ ウェブ英会話 法人向け堅調

レアジョブはオンライン英会話を手掛ける。2019年3月期までの数年は、新規の法人向け事業や人工知能（AI）のシステム開発の人材採用を進めてきた。一連の投資で効率よく利益を生む体制を構築し、従業員数は倍増したものの1人当たり営業利益を伸ばした。

20年3月期の連結売上高（45億円）のうち、約3割を法人・教育機関向け顧客が占める。「売上高の伸びほど販管費を控えて良くなった」（同社）。AIが2～3分で自動採点するスピーキングテスト「プログス」は20年6月に投入、顧客からの引き合いが強い状態が続く。21年3月期の連結営業利益は前の期比43%増の6億4千万円と過去最高を見込む。新型コロナウイルス禍で高まるオンライン英会話の需要が追い風となる。



コロナ禍でオンライン英会話が広がる